

## ヒダサンショウウオ *Hynobius kimurae* Dunn

### 【選定理由】

Okamiya et al. (2018) によるヒダサンショウウオの分類見直しに伴い、愛知県内に生息する真のヒダサンショウウオは豊田市旧小原村の集団のみとなった。生息域の狭さを考慮すると県内における本種の絶滅の恐れは低くないが、生息地が岐阜県境の国有林にあり、岐阜県側の集団とも交流可能と推測されることから、直ちに絶滅が懸念される状況にはないと判断され、絶滅危惧 I B 類と評価された。



豊田市大ヶ蔵連町, 2016年2月9日, 島田知彦 撮影

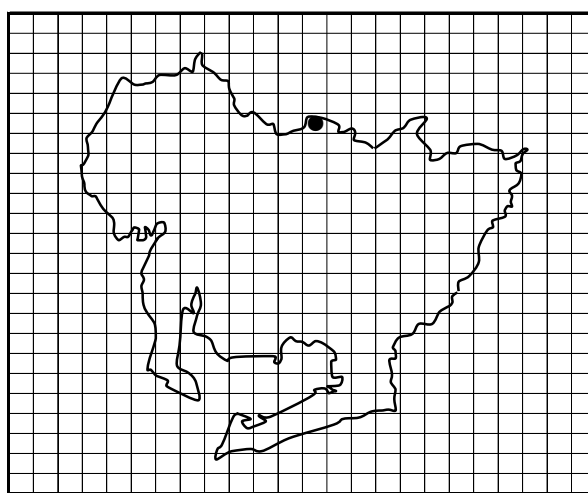
### 【形態】

体サイズは地域によって大きな変異を持つが、豊田市大ヶ蔵連町の雄の頭胴長平均は 67.2 mm (最小 60.9 mm、最大 72.6 mm) (島田他, 2017)。前肢に 4 本、後肢に 4~5 本の指を持つ。体色は紫がかった暗褐色で金色または黄色の斑点を持つ。近縁種のヒガシヒダサンショウウオと比較すると、体サイズが小型であることや、鋤骨歯列が細長く V 字型をしていること (ヒガシヒダサンショウウオは U 字型)、上下顎の歯の数が少ないこと等の点で区別できる (Okamiya et al., 2018)。

### 【分布の概要】

日本固有種。本県及び長野県以西から中国地方にかけて分布する。基準産地は京都府。県内では豊田市旧小原村の大ヶ蔵連国有林 (標高 500~600m) の山地溪流の周辺に生息する。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

源流付近の溪流を中心とした森林の斜面に生息する。産卵期は 2~4 月、源流部の岩の下面に 1 対の青みがかったバナナ状の卵嚢を産む。一腹卵数は旧小原村の集団で平均 17.6 個 (最小 14、最大 22、N=14)。幼生は通常年内に変態し上陸するが、一部の個体は幼生のまま越冬する (島田他, 2017)。上陸した個体は湿度のある倒木、岩、落葉などの下に潜み、陸上の小動物を捕食する。越冬は産卵地周辺の水中で行う。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

大ヶ蔵連国有林における生息密度は、それほど高いとは思われないが、域内ではいくつもの沢筋において生息が確認されており、全体としてはそれなりの規模を持った集団であると考えられる。生息地はほぼ全域が人工林であり、細い沢にまで砂防ダムが設置されていることから、人為的な環境変化の影響を被っていると考えられる。

### 【保全上の留意点】

ヒガシヒダサンショウウオと同様の山林環境の保全と同時に、生息地点がきわめて狭いことから、現認個体群の継続的なモニタリングが必要である。

### 【特記事項】

本県の個体群は本種の分布域の東限のひとつであり、ヒガシヒダサンショウウオとの分布が最も近接している場所でもあることから、重要な産地と言える。

### 【引用文献】

H. Okamiya, H. Sugawara, M. Nagano, and N. A. Poyarkov, 2018. An integrative taxonomic analysis reveals a new species of lotic *Hynobius* salamander from Japan. PeerJ 6: e5084.

島田知彦・饒波希衛・山田哲也・山田啓太, 2017 愛知県産ヒダサンショウウオによる幼生越冬の一例 三河生物 (9): 29-31.

(島田知彦)